

派遣先所属 福島県観光交流局県産品振興戦略課 氏名 関口 忍(せきぐち しのぶ)
派遣期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容及び現況

派遣先の県産品振興戦略課では、主に、福島県産品の PR、商品力の向上、販路開拓、伝統的工芸品の振興、首都圏アンテナショップ等に関する業務を行っています。

震災及び原子力災害の発生から 2 年半が過ぎ、県民の努力及び全国からの温かい支援により、風評被害が少し和らいできた矢先、25 年 7 月に東京電力福島第一原子力発電所の汚染水問題が発生し、県産品、特に水産物についての風評被害が再燃し、消費者離れ、企業間取引の激減等厳しい状況が続いています。

こうした状況を踏まえ、県産品の安全性 PR、産地の商品力強化の取組に対する支援及び販路の開拓を図る必要があります。

主な担当業務は、①ふくしま応援シェフを活用した消費者への安全性 PR に関すること、②大型食品展示会への出展に関すること、③復興支援イベントへの対応に関すること、④福島県ブランド認証制度に関することなどです。

①：福島県を食を通して応援して下さる全国の料理人、料理研究家、管理栄養士等の方々を「ふくしま応援シェフ」として登録し、この方々を実際に福島県の産地に招へいし、県産食材に係る安全性対策や魅力等について理解していただき、店舗において県産食材を使ったメニューを開発していただくなど県産食材の PR 活動を行っています。



<http://fukushima-ouen-chef.jp/>
(ふくしま応援シェフのホームページ)

また、首都圏で活躍するふくしま応援シェフの店舗等において、首都圏の消費者を対象とした県産食材を使用した試食会を開催し、県産食材の安全性を PR するとともに、利用の促進を図っています。



(県産品消費者理解促進交流会（試食会）の様子)

②大型食品展示会へ福島県ブースを出展し、首都圏のバイヤー等に県産品の安全性を PR するとともに、県内事業者の商談機会を創出し、県産品の販路の回復・拡大を支援します。

③：福島県の復興に向けて、首都圏等の企業・団体から、復興応援イベントへの出展等の御提案をいただき、主催者や出展事業者等との調整を行っています。

④：震災以降制度の運用自体が中断している福島県の特産品を認証する「福島県ブランド認証制度」について、新たな制度の構築や運用再開に向けた検討を進めています。

担当業務を通して感じることは、まだまだ復興には時間が掛かるということです。今年は、NHK大河ドラマ「八重の桜」で福島県の会津地方が取り上げられたことから、福島県への関心が湧き、多くの観光客が会津地方を訪れ賑わいました。ただし、この賑わいは、会津地方限定だという声も聞かれ、今後これを機会に、福島県全域へ観光客の方々が訪れるようになれば、地域・産地が活性化し、ひいては復興につながると考えます。

また、産地の事業者の方々と実際にお会いしお話しを伺うと、まだまだ厳しい状況にさらされていると実感します。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

福島県は、自然に恵まれ、四季折々の顔を見せ、地域の風土に根付いた県産品が豊富にあり、本当に素晴らしいところだと思います。そんな福島県が、平成 23 年 3 月

の東日本大震災及び原発事故、さらには 25 年 7 月の汚染水問題により未だ復興半ばにあることは、非常に残念です。

私自身、これからも長期間にわたって、県民、民間企業、そして県職員が一丸となって取り組んでいる復興に微力ながら協力していきたいと思います。



(磐梯山と猪苗代湖)

(磐梯山ゴールドライン)

派遣先所属 福島県観光交流局県産品振興戦略課 氏名 吉野 牧人（よしの まきと）

派遣期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の県産品振興戦略課は、主に原子力事故による風評によってブランド価値の低下した福島県産品のイメージアップを担う部署です。私は昨年度から引き続いての派遣となったため、業務も昨年と同様、福島県産品の海外輸出促進を行っています。

震災前、福島県産の桃はピーク時に 70 トン輸出していました。ところが震災によって各国の輸入規制や国内以上に厳しい風評の壁からゼロとなりました。昨年度はこう

した中、関係者の努力もあり、震災後初めてタイへ桃を輸出することができました。僅か1トンではありましたが、震災から約1年半、再び海外への扉を開けたことは福島県にとって新たな一歩でした。

今年度の私たちの課題は、桃の輸出量を昨年以上とすること、そして新たな市場を開拓すること、この2点でした。しかし、輸送コスト等がかかり現地販売価格が高額になる日本産、しかも原発事故による風評のある福島県産の桃を取り扱っていただけの販売店や商社を探すことは容易ではありません。桃の出荷が最盛期となる8月上旬にタイとマレーシアの百貨店、輸入商社の買付担当者を福島県に招聘しました。農産物の検査体制や販売店舗、果樹園の視察をとおして福島県産桃の品質の高さ、安全確保の取り組みを知っていただくことから輸出に向けた取り組みは始まりました。3日間にわたる行程を経て、招聘者にご納得いただき、注文を受けることができました。

結果的には8月下旬から10月中旬までタイ、マレーシア両国にほぼ毎週出荷し、昨年の約3倍の3.1トン福島県産の桃を輸出しました。次回の注文は商品が売れなければ入りませんが、日本産の桃は東南アジアでは馴染みがなく棚に陳列するだけではなかなか売れません。そこで、県として福島県産桃の販売が行われることを知っていただくため現地富裕層向け雑誌や新聞広告への掲載、試食を勧める販売員の配置など、販売のバックアップを行います。さらに現地の日本貿易振興機構（JETRO）や福島県に縁のある方々のご支援も欠かせません。そういった数々のご協力のおかげもあり、2カ月弱に渡ってタイ、マレーシア両国で福島県産桃の販売が実現しました。

福島県では、桃やリンゴといった県産品の輸出拡大とともに、近年訪日観光客数が急増している東南アジアからの観光客誘致にも力を入れようとしています。特に12月からは仙台～バンコクの直行便が就航する予定で、福島にお立ち寄りいただくようPRするには良いタイミングです。このため、10月中旬には副知事をトップとし、観光や県産品プロモーションのためのセミナーやレセプションの開催、旅行業代理店協会、販売店等への売り込みを行いました。セミナー・レセプションでは旅行業協会、飲食店関係者を中心に募集したところ定員を大きく上回る規模のお客様にお越しいただき、現地の日本への注目の高さを肌で感じました。埼玉県もその一つですが、各都道府県がこぞって東南アジア、特にタイの首都バンコクに基盤を築こうとしています。日本以外の国・地域との競争ももちろんありますが、それ以上に日本の他の都道府県との競争が激しくなります。その中でどのように差別化をし、現地の方々に福島県を選択していただくか、今が知恵と本気度が試されている時期なのだと感じました。

県産品の海外輸出は、多くの課題を抱えてしまった福島県にとって緊急性が高いわけでもなく、もっと重要な課題は他にあると思います。しかし、さまざまな事業が復興のために実施されていますが、この財源がいつまでもあるわけではありません。いつかは自立を求められます。「今震災復興に注目が集まっておりよいが、将来支援がなくなったら福島県には何も残らなくなるのではないか」こうった声を聞きます。私

の担当している業務は、福島県の将来へ向けての種まきなのだと考えています。今は小さな芽ですが、5年後、10年後のため、小さいながらも実績を作り、関係者との接点を作っています。その時は私も福島県で勤務してはいないでしょうが、この仕事がいつか花開く時が来ることを信じ、残りの時間仕事を頑張っていきたいと思います。



観光・県産品プロモーションセミナーの様子



福島県産桃の販売会の様子
(バンコク市内百貨店)

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

福島県を初めて訪れたのは昨年4月でした。私の住んでいる福島市内に限って言えばその当時から震災の傷跡はほとんどありません。しかし、沿岸部に足を運ぶと2年半以上が経過しているにも未だに立入ができない地域、居住ができない地域があり、震災の日から時間が止まったかのような光景を目にします。また、車で道を少し走れば避難者向けの仮設住宅を目にします。以前、仮設住宅に避難している方からお話を聞きました。震災翌日に数時間と思って家を離れたところそのままずっと自宅に帰れなくなった無念さ悔しさを語っている方もいました。「自宅に帰れるか帰れないかではなく、帰るんだという希望がなければ生きていけない」とおっしゃっている方もいました。震災は過去のことと思われがちですが、まだ終わっていないということを福島に住んでいない方にも忘れないでいてほしいと思います。

しかし、福島県は自然も豊かで、おいしい食べ物を新鮮に食べられるとても魅力的なところですよ。私も福島県についてほとんど分からず勤務を始めましたが週末に県内を見て回ることで次第に良さがわかってきました。温泉に入る、美味しいものを食べる、動機はいろいろあるでしょうが、まずは福島にお越しいただき、体感してくださいと皆さんにはお願いしたいです。また県土も広く、季節によって景色も旬の食べ物も変わるので、一度行った方でもまた違った楽しみ方もあるはずです。埼玉からお越しいただくのをお待ちしております。

最後に私がこの夏、首都圏の知人・友人に福島の現状を知っていただこうと企画したバスツアーの様子をお伝えします。



震災によって移転した大堀相馬焼
協同組合



果樹園での桃狩り体験
(伊達市)



震災後の火災で移転した久ノ浜仮
設商店街